



◀ 展示された農家自慢の山うどを見る参加者

特産品の白神山うどの出来栄を競い合う

山うど部会

収穫最盛期を迎えた山うどの出来を競う、第18回山うど共進会が2月23日にプラザ都で開催され、長内金悦さん（能代市・鶴島）が最優秀賞の全農秋田県本部長賞に選ばれました。

共進会には2Lが20点、3Lが19点の計39点が出展され、管内農家自慢の山うどがずらりと会場に並びました。「肌の色」、「石附やハカマがしっかりついているか」、「生長点の長さが揃っているか」などを厳しく審査し、お客様に選ばれる商品であるかどうかを重視しています。

今年度の山うどの生育について担当者は「雪が少ないので作業自体は比較的やりやすい状況だが、株の休眠に必要な低温量が不足したため、伸びにばらつきが出て生産者の方は苦労していると思う。このような難しい栽培状況の中でも、生産者の栽培管理の徹底で立派な山うどが出荷されています」と話しました。

- 優秀賞：藤田清樹さん（二ツ井町・種）
- 優秀賞：山谷清貴さん（二ツ井町・羽立）

販売額1億円早期達成を祝う

園芸メガ団地連絡協議会

園芸メガ団地販売額1億円早期達成祝賀会が2月10日にシャトー赤坂で開催され、生産者や行政、JA関係者ら約50名が栽培の苦労や喜びを分かち合いました。

園芸メガ団地連絡協議会会長の高橋裕さんは「メガ団地に入ることにはプラスの面だけでなく投資面での不安もあったが、行政やJAの協力があって栽培に励むことができた。メガ団地での1億円の達成、そして白神ねぎ10億円販売達成と2重の喜びだった。今後もメガ団地が生産と情報発信の拠点となるよう努力していきたい」とあいさつ。今年度のメガ団地の販売額は1億900万円を計上し、計画を2,900万円上回りました。



▲ 早期達成を参加者で祝い合った



▲ 生産調整や転作実施状況についても説明された

28年産米の生産数量目標を示す

能代市

平成28年度の農業政策を各地区の協同班長へ周知するため、2月19日に能代市文化会館と二ツ井町庁舎で農業協同班長会議が開催されました。

このうち能代地区の会議には、約80人の協同班長が出席し、東北農政局や市の担当者から生産数量目標配分などについての説明を受けました。平成28年産米の生産数量目標は作付配分率56.47%、転作率43.52%となり、過剰在庫解消を狙いとして、27年産米から設定されている自主的取り組み目標の作付配分率は55.86%となりました。また、営農計画書については、3月18日までに班長が農業再生協議会事務局へ提出するよう呼び掛けました。